

1. 事業名：フッリデーション(水道水フッ化物濃度調整)についての啓発活動

2. 申請者名：社団法人富岡甘楽歯科医師会

3. 実施組織名：

富岡甘楽歯科医師会、富岡市、下仁田町、南牧村、甘楽町、下仁田町健康づくり推進協議会
下仁田町保健推進員協議会、下仁田町フッリデーション推進会議、住民組織等
厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」、日本口腔衛生学会(学術支援)

4. 事業の概要：

富岡甘楽歯科医師会は、フッリデーションをこの地区に普及させ、地域全体のむし歯を減らしたいと考えている。フッリデーションの実現は、住民の健康の保持増進に大きく貢献し、国が提唱する8020運動に結びつく生涯を通じた歯科保健対策になる。さらに、歯が残り咀嚼力が保持されることにより、全身的な疾病予防や健康増進も期待でき、将来は医療費の抑制にも結びつくと思える。しかし、フッリデーション実施のためには、住民の理解と賛同を得ることが前提になる。富岡甘楽歯科医師会は、フッリデーションについて行政や住民の理解を得るため、これまで継続的に適切な情報を提供してきた。

今年度、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」と共同で、富岡甘楽地区の1市2町1村でアンケート調査を実施した。1歳から4歳の児を持つ保護者を対象にアンケート用紙を1,006人に配布し、934名(92.8%)から回答を得た。

その結果から、実際にフッ化物利用の恩恵を受けている子供を持つ30代前後の保護者は、フッリデーションについて既に理解を示し、実施についても支持している人が多いことが分かる。反面、漠然とした不安を感じている人も多い。今後も科学的に根拠のある情報を継続的に発信していきたいと考えている。啓発活動により住民から幅広い支持が得られれば、議会の承認を得てフッリデーションを実施できる環境が整うと思う。

5. 事業内容：

- (1) 歯の衛生週間行事「歯の健康フェア 2010」(第 25 回)を開催(フッリデーション啓発コーナーを設置)
- (2) リーフレット「フッリデーション 水道水とフッ化物でみんなの歯を健康に」を発行(32,000 枚印刷、6 月配布予定)
- (3) リーフレット「フッ化物で むし歯を減らす いろいろな方法」を富岡甘楽地区の全世帯に配布(行政組織の協力)
- (4) フッリデーション啓発用のふうせんの制作と配布(健康祭、食育フェスタ、夏祭り等で利用)
- (5) リーフレット「Do you know Fluoridation ?」の配布(平成 20 年度事業からの継続)
 - (2)(3)(5)は、発行:富岡甘楽歯科医師会 監修:厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」
- (6) フッリデーション啓発ポスターの掲示(平成 19 年度事業からの継続)
- (7) チラシ「知っていますか? フッリデーション」の配布(平成 19 年度事業からの継続)
- (8) クリアファイル「知っていますか? フッリデーション」の利用(平成 20 年度事業からの継続)
- (9) 富岡甘楽歯科医師会のホームページの充実(フッ化物利用とフッリデーションについての情報を提供)
- (10) フッ化物洗口説明会を利用した啓発(フッリデーションが最も優れた公衆衛生的なむし歯予防法)
- (11) アンケート調査の実施(厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」と共同で実施)
- (12) ぐんま食育フェスタ in 富岡(参加者約 9600 人)に歯科保健啓発コーナーを設置
- (13) 甘楽町「健康かんら 21」及び「健やか親子 21」懇談会 フッリデーションについての提言
- (14) 甘楽町第 31 回健康祭でフッリデーション啓発を実施
- (15) 下仁田町フッリデーション推進会議主体の主な活動(定例会の開催、夏祭りへの参加、ユニホームの作成など)
- (16) 下仁田町保健センターに設置されたフッリデーションモデル装置の活用(フッリデーション水の試飲等)
- (17) 下仁田町保健センター主体の活動(区長会に対するフッリデーション説明会など)
- (18) 「甘楽富岡学校歯科保健だより No.14」の配布(発行数 8,000) フッ化物利用とフッリデーションについて解説

6. 実施後の評価(今後の課題)：

厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究班」と共同で、1歳児から4歳児を持つ保護者を対象に、管内全市町村でフッリデーションについてのアンケート調査を実施した。その結果から、実際にフッ化物利用の恩恵を受けている子供を持つ 30 代を中心にした保護者は、フッリデーションについて既に理解を示し、実施についても支持している人が多いことが分かる。反面、漠然とした不安を感じているものも多い。フッリデーションについて正確な知識を持つ人は、その実施についても肯定的な意見を持つ場合が多いので、今後も正確な情報を継続的に提供していく必要がある。